

不登校支援ネットワーク会議について（協議）

【趣旨】 花巻市における不登校の現状及びこれまでの取組について説明し、令和8年度に教育委員会、関係部課及び関係機関が一体となって立ち上げた、「不登校支援ネットワーク会議」についてご意見を伺います。

1 花巻市における不登校の現状やこれまでの経緯について（資料1参照）

(1) 花巻市における不登校の現状

花巻市における不登校児童生徒の出現率は、国や県の数値を下回っているところ。

ア 校種別の傾向（資料1のP1）

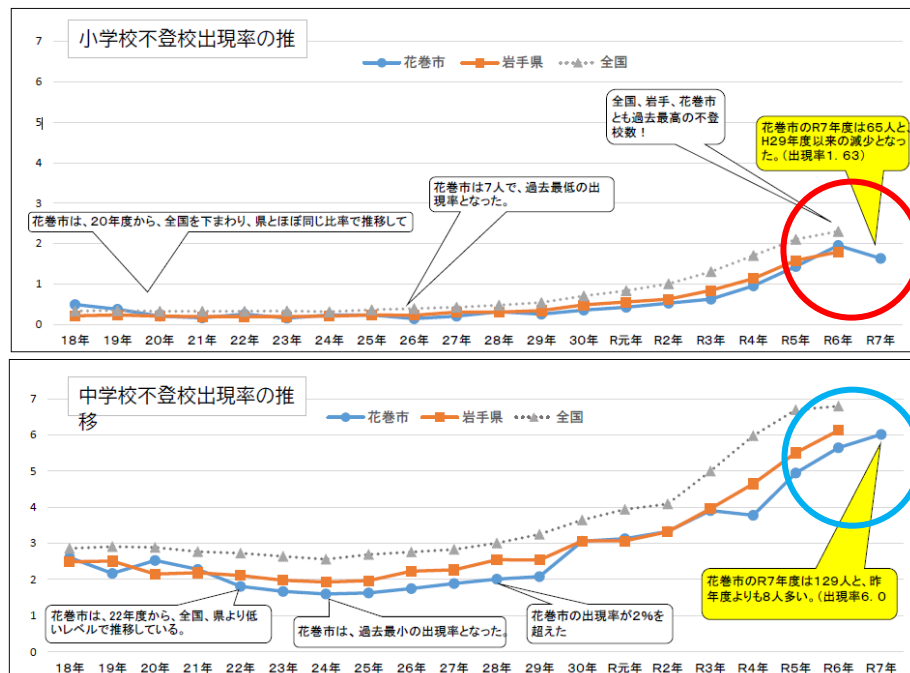
【小学校】

- 令和6年度は、過去最高の不登校数である81人を記録したものの、令和7年度は16人減少し、65人となった。
- 令和7年度の不登校出現率は1.63で、平成29年度以来の減少となった。

【中学校】

- 令和7年度は、令和6年度と比較して8人増え、129人となった。
- 令和7年度の不登校出現率は6.02で、過去最高となった。

図1：【小中学校における不登校出現率の推移】（R7 花巻市長欠報告より）



＜小学校＞令和7年度は、昨年度より16人減り65人である。出現率は1.63で、平成29年度以来の減少となった。
＜中学校＞令和7年度は、昨年度より8人増え129人である。出現率は6.02で、過去最高となった。

イ 不登校のきっかけや原因（資料1のP4、P5）

【小学校】

- 小学校においては、個人内面の状況が原因のものが多く、背景には家庭の状況が影響していることも考えられる。

【中学校】

- 中学校においては、無気力・不安や友人関係のトラブルが多い。特に、人間関係で悩み精神的に不安定な生徒が増えている。
- 背景に複雑な家庭環境が影響している事例も多い。

図2：【不登校のきっかけと原因】（R7 花巻市長欠報告より）

	いじめ	人間関係 （友人関係）	教師との関係 （教員との関係）	学習意欲 （課題の達成感）	学校生活 （進路・転学）	家庭環境 （生活リズム）	方親 （生活リズム）	調生活 （生活リズム）	遊び・非行 （無気力）	不安・抑うつ （無気力）	むづかし （疑いを含む）	個別の配慮	該当なし
小学校	0	13	2	5	0	1	3	5	9	0	5	19	1
中学校	0	29	3	15	1	2	9	6	17	0	18	27	1
合計	0	42	5	20	1	3	12	11	26	0	23	46	2

ウ 別室登校の増加（資料1のP6、資料2-1）

- ・ 別室登校の児童生徒数は、年々増加傾向にあり、令和2、4年度に一旦減少したものの、その後、増加している。
- ・ 令和7年度の別室登校30日以上は、ここ10年で最多であり、特に中学生の人数が60人を超えた。
- ・ 令和7年度は、中学校1年生が前年度と比較して2倍の人数となり、60人を超えたことから、過去最多の人数を記録した。
- ・ 花巻市「COCOLOプラン」の導入により設置した、安心して通える「校内教育支援センター」（資料2-1）の好影響も要因のひとつと考えられる。

図4：【別室登校の児童生徒数の推移】（R7 花巻市長欠報告より）

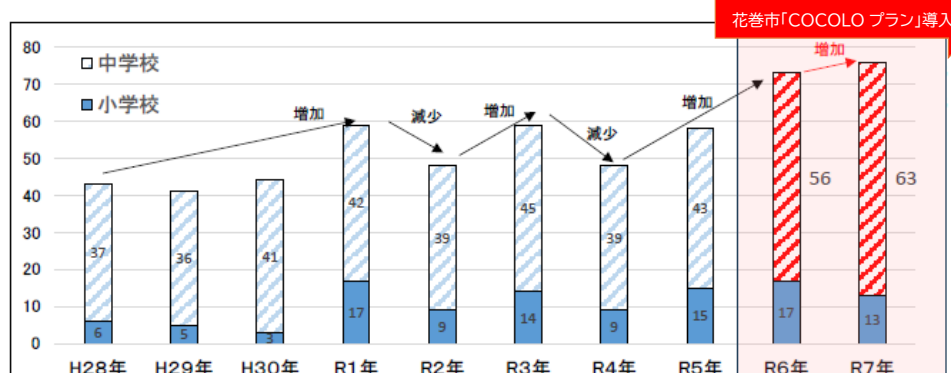


図5：【別室登校の児童生徒数の学年別人数】（R7 花巻市長欠報告より）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
令和7年	1	1	1	1	3	6	19	17	27	76
令和6年	3	0	1	5	2	6	8	20	28	73
令和5年		2	4	2	3	4	13	17	13	58
令和4年			1		5	3	6	5	28	48
令和3年	0	0	1	4	4	5	6	15	24	59
令和2年		2	3		2	2	4	13	22	48
令和元年	1	1	2	6	2	5	8	14	20	59
平成30年	1	1	2	1	4	4	5	24	12	54
平成29年	1	1		2	1		11	13	12	41
平成28年				1		5	8	8	21	43

(2) 令和7年度までの不登校対策にかかる取組（資料2参照）

ア 取組みの方向性

- ・ 新たな不登校を生まないために、「未然防止・初期対応」への手立てを充実させ、組織的な校内体制の構築について支援してきたもの。
- ・ 花巻市「COCOLOプラン」（資料2-2）の実現に向けて、誰一人取り残されない学びの保障のため、市教育支援センター（風の子ひろば）及び医療、福祉の関係機関や関係団体との連携を深めてきたもの。
- ・ 保護者や児童生徒が抱えている悩みや相談を、スクールカウンセラーや教育相談員等へ相談できる体制の充実に努めてきたもの。

【令和7年度取組の具体例】

- ・ 学校訪問の実施（未然防止や改善に向けた相談・支援）
- ・ 不登校対応マニュアルの改訂とその活用
- ・ 校内教育支援センターの充実及び環境整備
- ・ 生徒支援員の不登校児童生徒支援（中学校11校に12名配置）
- ・ 定期的なケース会議での情報交換 生徒支援員の研修（年1回）
- ・ 花巻市教育支援センター（風の子ひろば）の積極的な不登校支援
- ・ アウトリーチ型支援の取組
 - ・ 校内ケース会議への参加
 - ・ タブレット活用の工夫等
 - ・ 小学校から中学校への情報の引継ぎ
- ・ フリースクールとの定期的な情報共有（学期に1回）

イ 花巻市「COCOLOプラン」における成果と課題（資料2-3、2-4）

① 全体の成果（資料2-3）

- ・ **194人全ての不登校児童生徒が、何らかの相談相手とつながることができた。**
- ・ 学校外の専門的な関係機関とつながり、相談指導を受けた人数が、小中合わせて94人（48％）に増加した。
- ・ 校内において、養護教諭・SC・校内支援センターとつながり、相談指導を受けた人数が、小中合わせて84人（43％）に増加した。
- ・ 校内において、担任の先生とだけつながり、相談指導を受けたが、専門的な機関とはつながっていない人数が、小中合わせて59人（30％）であり、現状維持であった。

② 全体の課題（資料2-4）

- ・ **不登校の児童生徒が、何らかの相談機関とつながることができ**

ものの、「成果エ」に挙げた 59 人のような児童生徒に対し、専門的関係機関における相談の必要性について、児童生徒の状況を的確に把握する必要がある。

- ・ 保護者に対する専門的な関係機関についての情報提供や、専門的な関係機関とつながる必要性について、理解を得る必要がある。
- ・ 専門的な関係機関が、不登校の児童生徒に対して「それぞれが別個にアプローチをしているのが現状」であることから、関係する機関が集まり、情報共有することで、一体的な支援を行う必要がある。

③ 個別の課題（資料 2－4 の P1～3）

対 象		個別の課題
児童生徒		・家庭環境の影響を受けているケースが増加 ・支援を受けられないケースがある
保 護 者		・改善意識の希薄さ、 ・学校不信 ・相談機関に関する情報が少ない事による孤立 ・子どもにうまくかわれない保護者や、保護者自身に特性があるケースの増加
学 校		・保護者との関係構築の難しさ ・関係機関と「どのタイミングで」「どこに」「どうやって」つながれば良いか分からない。 ・校内における組織的取組の不足 ・スクールカウンセラーとの情報共有の難しさ
関係機関	校内教育支援センター	・児童生徒の特性の多様化に伴う対応の難しさ ・オンライン授業の体制整備に係るネット環境整備の必要性 ・児童生徒が安心して過ごせる環境づくりのための環境の充実
	花巻市教育支援センター（風の子ひろば）	・利用者の増加や特性の多様化に伴う、個別対応のためのスペース確保 ・オンライン授業の体制整備に係るネット環境整備の必要性 ・児童生徒が安心して過ごせる環境の充実
	スクールソーシャルワーカー	・情報不足による介入時期の遅れ ・学校におけるスクールソーシャルワーカーの役割の認識不足
	フリースクール	・学校からの積極的なかわりが少ない事による、情報共有の場の少なさ
	放課後デイサービス	・デイサービスの周知と利用の促進

2 「不登校支援ネットワーク会議」について（資料 3 参照）

(1) 設置の目的

教育委員会、花巻市教育支援センター（風の子ひろば）、医療・福祉等の関係行政機関やフリースクール等の関係団体との連携体制を構築し、不登校児童生徒について、家庭環境を踏まえたケースごとの情報や支援の方向性について共有し、専門家からの助言を得ながら、各機関の強みを生かした支援策について検討する。

(2) 令和 8 年度の取組状況

- ア 名 称： 「第 1 回花巻市不登校支援ネットワーク会議」（21 名参加）
期 日： 令和 8 年 6 月 23 日（火）
助言者： 藤崎 育子 氏（開善塾教育相談研究所 所長）
野々口浩幸 氏（八戸工業大学 教授）
参加者： 花巻市医師会、花巻市 PTA 連合会、フリースクール、花巻市小・中校長会、県立総合教育センター、中部教育事務所スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー、健康こども部、子ども家庭センター、地域福祉課、教育委員会（学務管理課、学校教育課、教育支援センター、スクールソーシャルワーカー）
- イ 名 称： 「不登校にかかる関係課長級意見交換会」（8 名参加）
期 日： 令和 7 年 7 月 10 日（金）
参加者： 地域福祉課、障害福祉課、こども家庭センター、学校教育課

(3) 今後の取組案

- ア プロジェクトチームの設立（資料 3－1）
教育委員会、健康こども部、福祉部局の三者が情報共有を行い、医療や福祉へつなげることが必要と思われるような複雑なケースについて、意見交換を行うことで方向性を検討し、協働して支援にあたる。
- イ アクションプランの策定（資料 3－2）
関係機関における具体的な取組について、教育委員会が学期ごとに確認するための行動項目を示し、より積極的な連携と行動を示す。
- ウ ステップアップシートの活用（資料 3－3）
不登校児童生徒の現状把握と、次のステップを見通すことができるシートを活用し、適切な支援を展開する。

3 今後の予定

- ・ 8 月 : 定例校長会議における説明
→ 家庭との連携強化及び課題の共有
- ・ 8～10 月 : ア 第 2 回不登校支援ネットワーク会議の開催
イ プロジェクトチームの設立、アクションプランの策定
ウ 校内教育支援センター及び花巻市教育支援センター（風の子ひろば）の状況確認
- ・ 10 月以降 : ア アクションプランの推進
イ 不登校支援に係るリソース整備（人員配置、備品等の整備、予算措置）について検討
- ・ 12 月 : 第 3 回不登校支援ネットワーク会議の開催

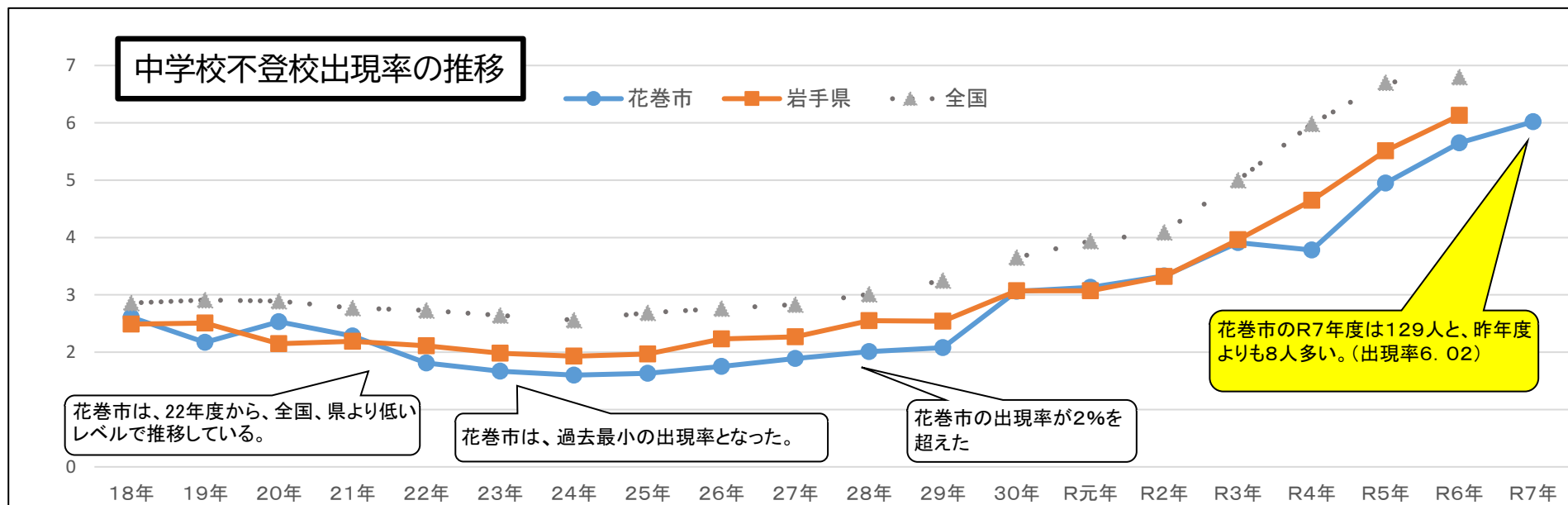
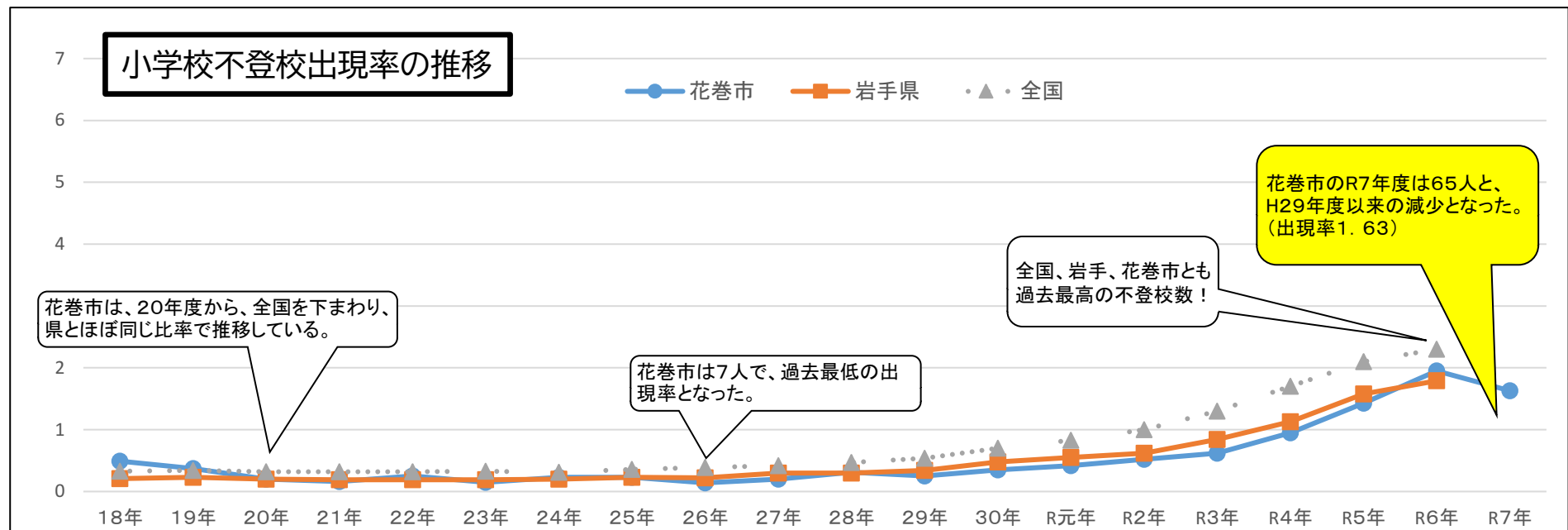
花巻市における令和7年度不登校児童生徒の実態 (問題行動等調査の結果より)

資料: 1

令和8年5月31日現在

【1 花巻市は全国や県と比較して不登校は少ない？ 多い？】 年間30日以上欠席数(病気、事故欠除く)

	小学校			中学校		
	花巻市(%)	岩手県 (%)	全 国 (%)	花巻市(%)	岩手県 (%)	全 国 (%)
平成18年度	28 (0.49)	158 (0.21)	23,825 (0.33)	82 (2.61)	1,038 (2.49)	103,069 (2.86)
平成19年度	21 (0.37)	169 (0.23)	23,927 (0.34)	67 (2.17)	1,024 (2.51)	105,328 (2.89)
平成20年度	11 (0.20)	146 (0.20)	22,652 (0.32)	76 (2.53)	998 (2.51)	104,153 (2.89)
平成21年度	9 (0.16)	137 (0.19)	22,327 (0.32)	67 (2.28)	847 (2.19)	100,105 (2.77)
平成22年度	14 (0.25)	138 (0.19)	22,463 (0.32)	50 (1.81)	789 (2.11)	97,428 (2.73)
平成23年度	8 (0.15)	133 (0.19)	22,622 (0.33)	48 (1.67)	734 (1.98)	94,836 (2.64)
平成24年度	12 (0.23)	134 (0.20)	21,243 (0.31)	46 (1.60)	705 (1.93)	91,446 (2.56)
平成25年度	12 (0.23)	153 (0.23)	24,175 (0.36)	47 (1.63)	710 (1.97)	95,442 (2.69)
平成26年度	7 (0.14)	143 (0.22)	25,864 (0.39)	49 (1.79)	791 (2.23)	97,033 (2.76)
平成27年度	10 (0.20)	190 (0.30)	27,583 (0.42)	52 (1.89)	834 (2.27)	98,408 (2.83)
平成28年度	15 (0.31)	183 (0.30)	30,448 (0.47)	54 (2.01)	880 (2.55)	103,235 (3.01)
平成29年度	12 (0.25)	202 (0.33)	35,032 (0.54)	55 (2.08)	844 (2.54)	108,999 (3.25)
平成30年度	16 (0.35)	284 (0.48)	44,841 (0.70)	79 (3.06)	979 (3.07)	119,687 (3.65)
令和元年度	19 (0.42)	319 (0.55)	53,350 (0.83)	78 (3.13)	958 (3.07)	127,922 (3.94)
令和 2年度	23 (0.52)	356 (0.62)	63,350 (1.00)	79 (3.33)	1,016 (3.32)	132,777 (4.09)
令和 3年度	26 (0.62)	471 (0.84)	81,498 (1.30)	94 (3.91)	1,208 (3.96)	163,442 (5.00)
令和 4年度	39 (0.93)	617 (1.13)	105,112 (1.70)	88 (3.82)	1,388 (4.65)	193,936 (5.98)
令和 5年度	59 (1.43)	843 (1.58)	130,370 (2.14)	113 (4.95)	1,616 (5.51)	216,112 (6.71)
令和 6年度	81 (1.97)	931 (1.79)	137,704 (2.30)	121 (5.65)	1,754 (6.13)	216,266 (6.80)
令和 7年度	65(1. 63)	※問題行動等調査(確定値)		129(6. 02)	※問題行動等調査(確定値)	



＜小学校＞令和7年度は、昨年度より16人減り65人である。出現率は1.63で、平成29年度以来の減少となった。

＜中学校＞令和7年度は、昨年度より8人増え129人である。出現率は6.02で、過去最高となった。

【2 不登校児童生徒数(学年男女別)】

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	小計	中計	合計
男子	1	2	5	8	10	10	23	26	12	36	61	97
女子	1	5	1	6	9	7	20	27	21	29	68	97
合計	2	7	6	14	19	17	43	53	33	65	129	194

※R7問題行動等調査データより

- ・小学校では、男子の方が多い。
- ・中学校では、1年生が男子、2・3年生は、女子が多い。

【3 不登校の長期欠席者はどの程度いるのか 】 ※令和7年度 欠席日数30日以上

※R7問題行動等調査データより

欠席日数	30～ 49	50～ 69	70～ 89	90～ 109	110～ 129	130～ 149	150～ 169	170～ 189	190～	計
小学校	21	11	3	5	4	3	6	6	6	65
中学校	27	18	18	14	9	12	10	10	11	129
計	48	29	21	19	13	15	16	16	17	194

※令和7年度の年間授業日数はおおよそ201～204日である。

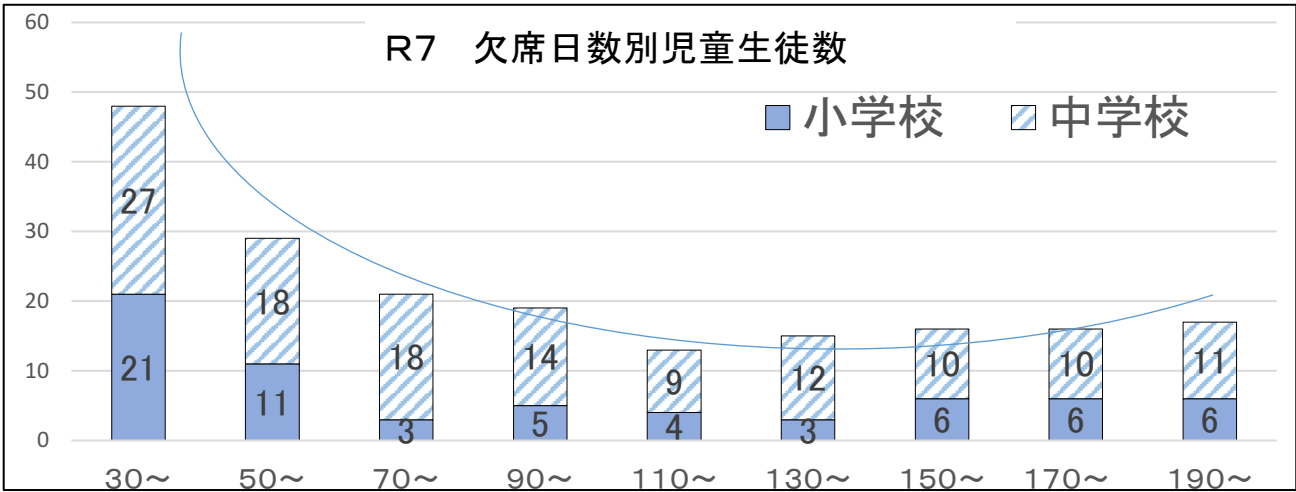
- ・不登校を欠席日数別にみると、R3年度までは、日数が多くなるほど人数は減少傾向にあったが、R4年度はでこぼこ、R5年度はU字曲線から減少、R6・R7年度は減少からゆるやかなU字曲線となっている。

- ・R7年度 190日以上欠席(長期欠席)は17人(8%)
←R6年度17人(小5、中12)

※17人の内訳

小2年1人、小4年1人、小5年2人、小6年2人、
中1年1人、中2年6人、中3年4人

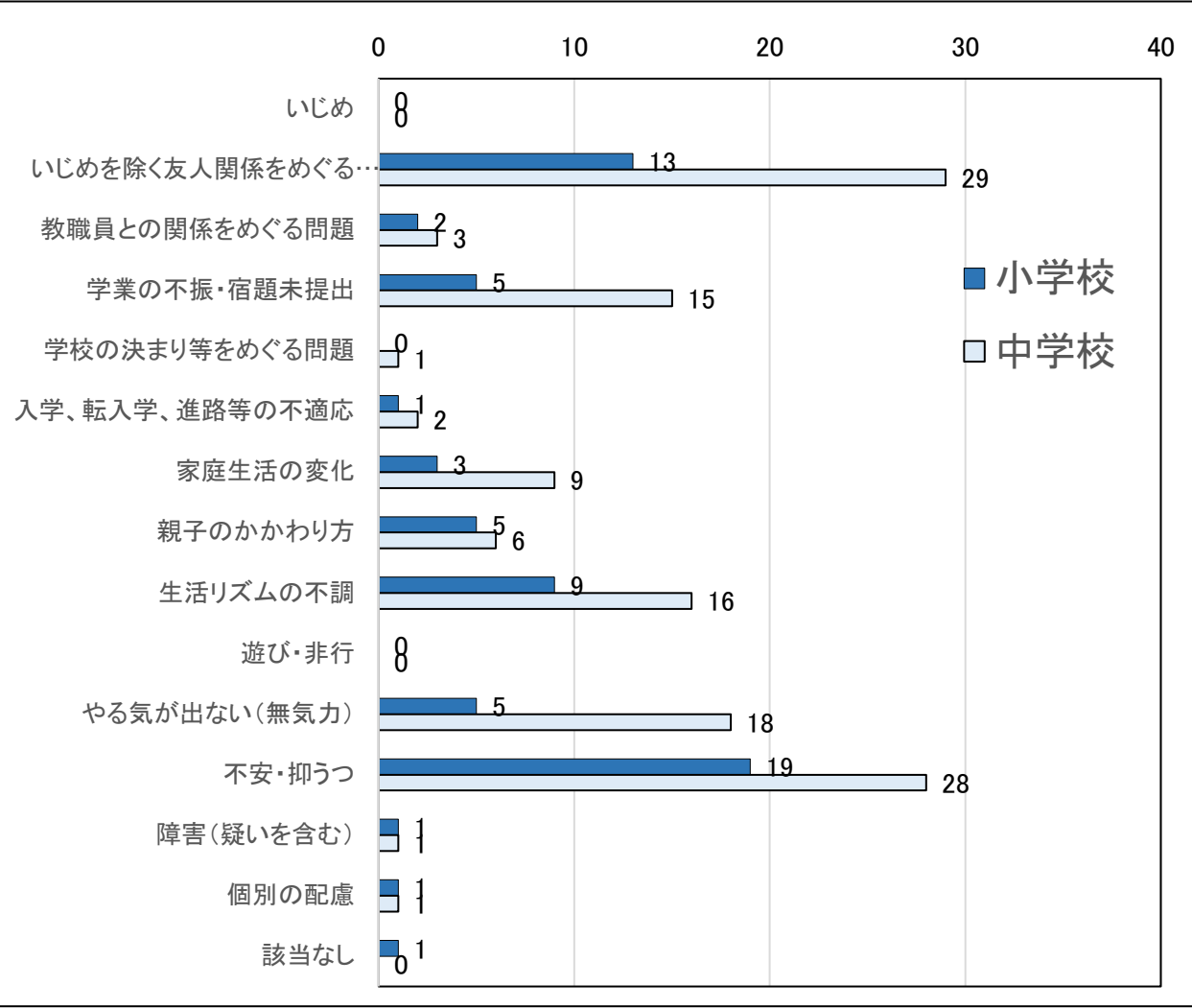
- ※R7 欠席日数30～49日のうち
 - ・小学校は30～33日が10人
 - ・中学校は30～33日が 7人



【4 不登校のきっかけや原因は何が多いのか】（※令和5年度より、項目が変わる）

※R7花巻市長欠報告より

	いじめ	人間関係をめぐる友人関係	教職員との関係	学業の不振・宿題未提出	学校の決まり等をめぐる問題	入学、転入学、進路等の不適應	家庭生活の変化	親子のかかわり方	生活リズムの不調	遊び・非行	やる気が出ない（無気力）	不安・抑うつ	障害（疑いを含む）	個別の配慮	該当なし
小学校	0	13	2	5	0	1	3	5	9	0	5	19	1	1	1
中学校	0	29	3	15	1	2	9	6	16	0	18	28	1	1	0
合計	0	42	5	20	1	3	12	11	25	0	23	47	2	2	1



＜小学校＞
・令和7年度は、不登校の原因として、**不安・抑うつ(19人)**、**人間関係(13人)**、**生活リズム(9人)**が多かった。
◎個人に係る状況による原因の多いが、背景には、家庭の状況が影響していることも考えられる。

※過去5年間のベスト3 ()は人数を表す
令和6年度・・友人関係(23)、不安・抑うつ(18)、生活リズム(10)
令和5年度・・不安・抑うつ(12)、生活リズム(11)、友人関係、親子の関わり方(8)
令和4年度・・無気力・不安(17)、家庭(9)、生活リズム(6)
令和3年度・・無気力・不安(14)、生活リズム(6)
令和2年度・・友人関係(4)、学業不振(4)

＜中学校＞
・令和7年度は、**友人関係(29人)**、**不安・抑うつ(28人)**、**無気力(18人)**が主な不登校のきっかけとなっている。
◎無気力・不安や友人関係のトラブルが多い。特に、人間関係で悩み精神的に不安定な生徒が増えている。(背景に複雑な家庭環境が影響している事例が多い。)

※過去5年間のベスト3 ()は人数を表す
令和6年度・・不安・抑うつ(28)、友人関係(27)、学業不振(18)
令和5年度・・友人関係(24)、不安・抑うつ(20)、無気力、家庭生活、学業不振(14)
令和4年度・・無気力・不安(37)、友人関係(20)、家庭(9)
令和3年度・・無気力・不安(31)、友人関係(27)、家庭(16)
令和2年度・・友人関係(29)、学業不振(22) 部活不適應(6)

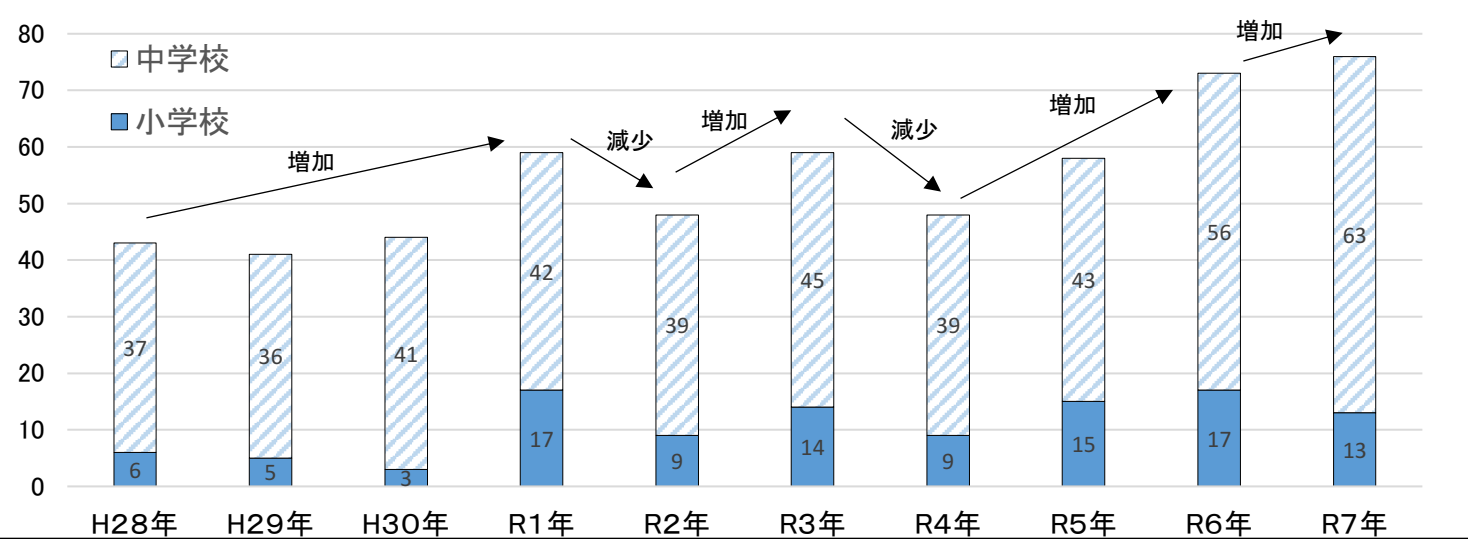
【6 別室登校について】 令和7年度 不登校194人が対象

(1)別室登校の児童生徒数(学年男女別) ※年間30日以上別室登校した児童生徒

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	小計	中計	合計
男		1	1	1		3	5	3	9	6	17	23
女	1				3	3	14	14	18	7	46	53
合計	1	1	1	1	3	6	19	17	27	13	63	76

・中学校は、校内支援センターの設置や生徒支援員の配置により、別室の生徒が多い。
・中学校では、女子が多い。

(2)別室登校の推移(H28～R7) ※年間30日以上別室登校した児童生徒



・別室登校数は、年々増加傾向にあり、R2年に減少し、その後増加・減少・増加となっている。
・R7年における別室30日以上は、ここ10年で1番多く、特に中学校全体の人数が60人を超えた。

※不登校の中学校は、前年度からの継続がほとんどである。別室と教室の壁は大きい。

(3)どの学年が多いのか(H26～R7) ※年間30日以上別室登校した児童生徒

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
令和7年度	1	1	1	1	3	6	19	17	27	76
令和6年度	3	0	1	5	2	6	8	20	28	73
令和5年度		2	4	2	3	4	13	17	13	58
令和4年度			1		5	3	6	5	28	48
令和3年度	0	0	1	4	4	5	6	15	24	59
令和2年度		2	3		2	2	4	13	22	48
令和元年度	1	1	2	6	2	5	8	14	20	59
平成30年度	1	1	2	1	4	4	5	24	12	54
平成29年度	1	1		2	1		11	13	12	41
平成28年度				1		5	8	8	21	43

・小学校1年生から中学校3年生まで、別室登校者が出てきている。
・中学校1年生が、前年度より倍増し、ここ10年の中でも1番多い人数と同数になった。
・中学校全体で60人を超え、過去最多となった。
（校内教育支援センター設置も増加の要因か。）

【7 不登校はどの学年が多いのか】 ※欠席日数30日以上

※R7問題行動等調査より

(1) 過去10年間の不登校数の推移 (H28～R7)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計(出現率)
平成28年	1	1	2	3	3	5	14	16	24	69(0.9%)
平成29年	1	0	2	1	4	4	18	17	20	67(0.9%)
平成30年	1	1	2	2	5	5	25	33	21	95(1.3%)
令和元年	0	2	2	4	5	6	19	28	31	97(1.4%)
令和2年	1	2	4	2	4	10	20	30	29	102(1.5%)
令和3年	2	3	2	5	4	10	26	33	35	120(1.8%)
令和4年	2	4	5	8	7	13	22	33	33	127(2.0%)
令和5年	2	4	11	7	15	20	31	39	43	172(2.7%)
令和6年	2	3	7	21	12	28	34	38	49	194(3.2%)
令和7年	2	7	6	14	19	17	43	53	33	194(3.2%)

H28～R7
平均人数

※R7児童生徒数
6132人

・不登校は、小中全体では平成30年度から90人台となり、急増している。(特に小6から中1で急増)

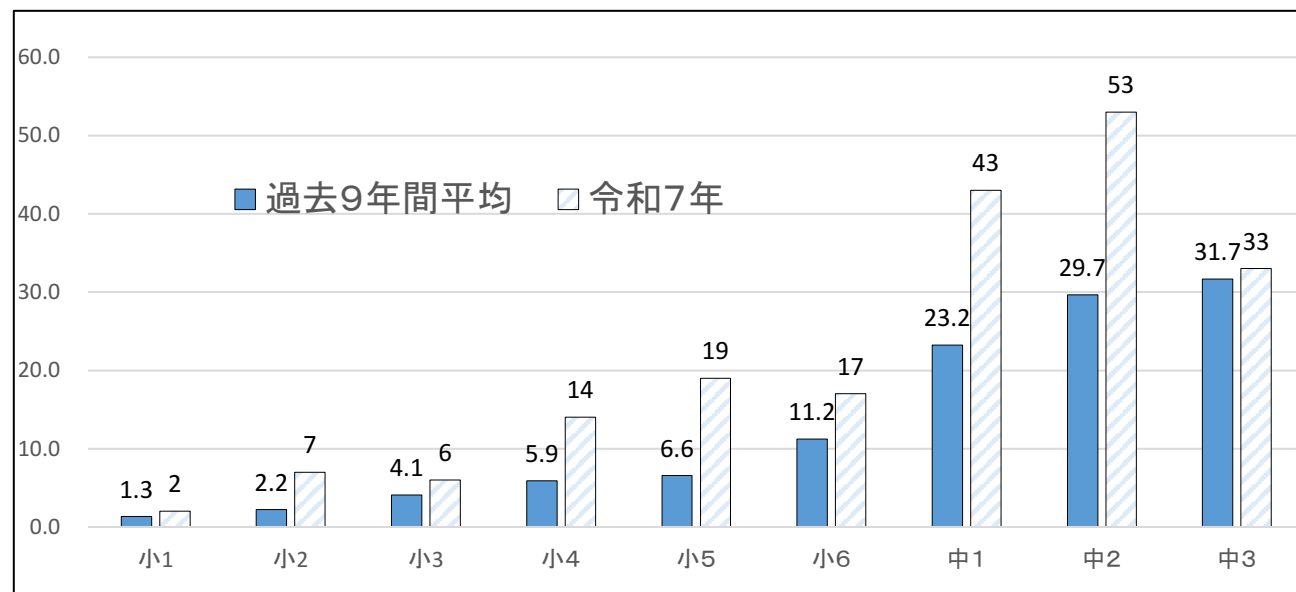
・令和2年度から100人を超えた。
・令和2年度から小学校6年生が2桁になっている。

・令和4年度から令和5年度に不登校数が急増している。(45人増)

・令和6年度に出現率が3%を超えた。
(令和4年度から2年間で1.2%増)

(2) 令和7年度は例年と比べてどの学年が増えたのか

令和7年度と過去9年間(H28～R6)との比較

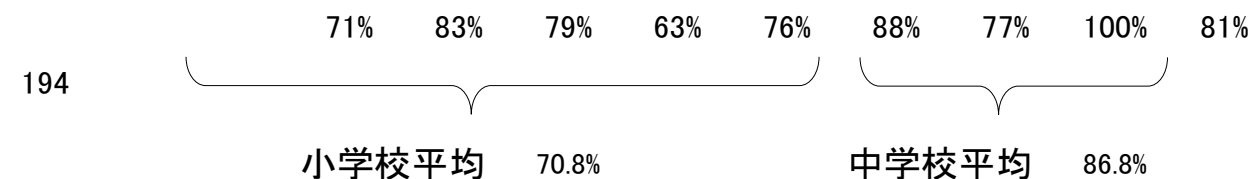


※過去9年間の平均

- ・令和7年度は、過去9年間と比較し、全学年で上回っている。
- ・令和7年度の小学校は、特に2・5年生が大きく上回っている。(最大は5年生の2.88倍)
- ・中学校は、全学年で過去の平均より上回っているが、中3は差が縮まっている。

(3) 過去に不登校経験(15日以上欠席)のある児童生徒の人数は？

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
R7不登校数	2	7	6	14	19	17	43	53	33	194
うち不登校経験有りの人数	0	5	5	11	12	13	38	41	33	158



※R7問題行動等調査データより

- ・令和7年度の不登校の中で、過去に15日以上欠席したことがあるか調べた結果、小中あわせて158人(81%)となった。
- ・小は7割、中は9割弱が過去に不登校経験がある。

※過去に不登校経験のある児童生徒は、再び不登校になりやすい傾向にある。

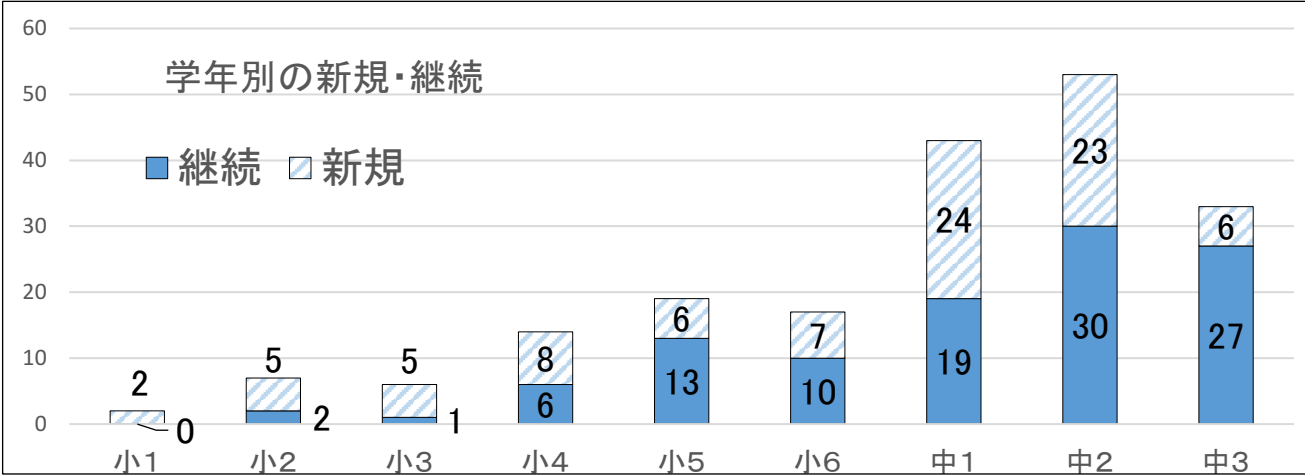
【8 不登校が昨年度から継続している児童生徒はどの程度いるのか】

※R7問題行動等調査データより

※新規＝前年度の欠席日数が30日未満 継続＝前年度の欠席日数が30日以上

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
継続	0	2	1	6	13	10	19	30	27	108
新規	2	5	5	8	6	7	24	23	6	86
計	2	7	6	14	19	17	43	53	33	194

- <小学校>
- ・新規は33人だが、過去に欠席報告あり(15～29日欠席も含む)の児童が19人(新規の約54%)いる。
- <中学校>
- ・例年、学年が上がるにつれて継続数の割合が増えていたが、中3は減少となった。(経年で見ると、一昨年度 31名、昨年度38名と増加の幅を抑えていることも要因と思われる。)
- ・中3は継続(27人)のうち、23人(85%)は3年間不登校になっている。

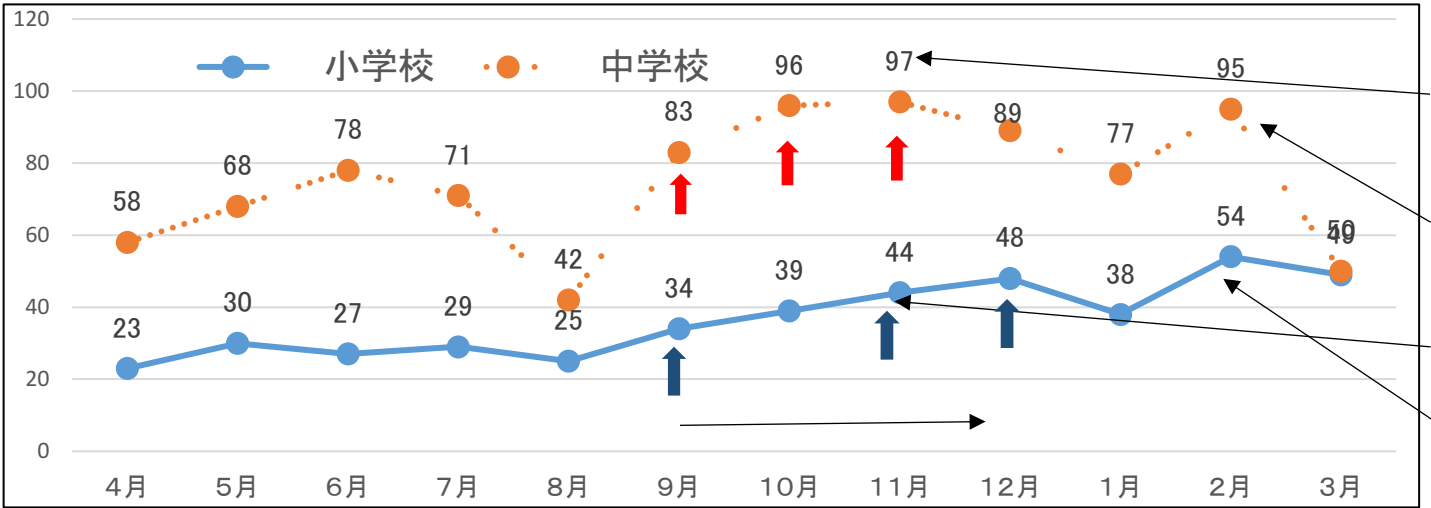


【9 欠席者の多い月はいつ頃なのか】

※R7花巻市長欠報告より

月7日以上欠席、年間累計15日以上欠席者の人数 ※令和7年度の欠席状況報告より

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学校	23	30	27	29	25	34	39	44	48	38	54	49
中学校	58	68	78	71	42	83	96	97	89	77	95	50
計	81	98	105	100	67	117	135	141	137	115	149	99



- <中学校>
- ・年間の中で、1学期は6月、2学期は11月をピークに増加し、特に9月から12月は80人を超えている。
- ・2月は例年、体調不良等(風邪等)での欠席者が増える傾向にある。
- <小学校>
- ・特に9月から増えはじめ、11月・12月は40人を超えている。
- ・小学校は例年2月は年間欠席数の累計15日以上的人数が増える傾向がある。

【10 新たな欠席者(新規報告者)は、どの学年が、いつ頃増えるのか】

※R7花巻市長欠報告より

(1) 過去8年間の新規の報告者数(H30～R7)

(新規＝昨年度の欠席が30日未満)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
小学校	小学校全体	21	26	29	24	13	45	57	47	34	18	38	15	367
	1年	3	2	1	1	2	5	7	3	3	2	9	1	39
	2年	1	3	5	3	2	5	3	7	4	3	4	3	43
	3年	4	6	1	2	1	5	6	6	8	3	3	3	48
	4年	5	5	7	8	0	9	11	8	4	4	7	4	72
	5年	3	7	6	3	4	7	11	15	6	1	7	2	72
	6年	5	3	9	7	4	14	19	8	9	5	8	2	93
中学校	中学校全体	44	41	39	45	39	61	58	49	18	22	27	7	450
	中1	7	12	13	25	28	36	26	11	6	16	11	3	194
	中2	20	25	14	16	4	18	25	31	7	5	12	3	180
	中3	17	4	12	4	7	7	7	7	5	1	4	1	76

＜小学校＞

- ・9月～11月ごろに、新規の不登校が多い。

＜中学校＞

- ・2、3年生は4月から新規が報告され、1年生は7月から新規が多く報告されている。

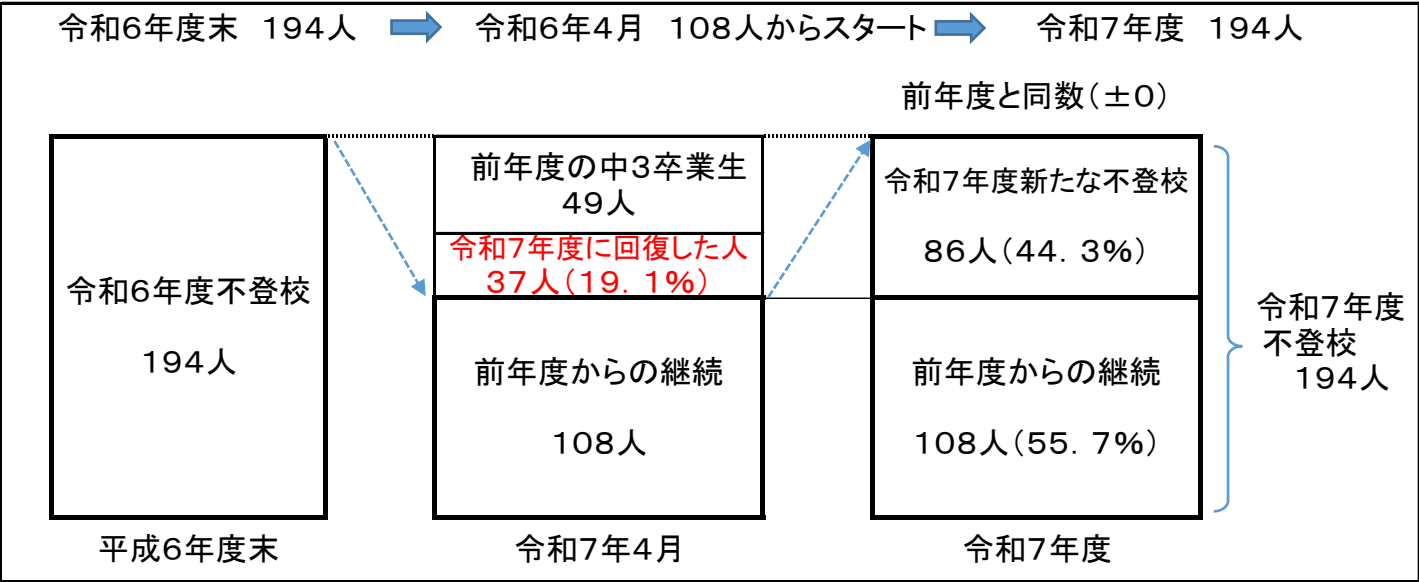
- ・中学校は、1年生と2年生が多い。
(例年、新規は1年生が一番多い)

【11 令和7年度に不登校がどの程度改善されたのか】

※R7問題行動等調査とR6問題行動等調査のデータより作成

(1) 令和7年度の不登校の回復状況

※「回復できた人」とは、昨年度不登校だったが今年度の欠席日数が30日未満となった人



・「令和7年度に回復できた人」は37人だった。
令和6年度の不登校の19.1%が回復できた。

<過去10年間の回復できた人数>

平成28年度	10人
平成29年度	19人
平成30年度	9人
令和元年度	20人
令和2年度	10人
令和3年度	17人
令和4年度	21人
令和5年度	5人
令和6年度	7人
令和7年度	37人

(2) 令和7年度の不登校児童生徒の内、登校できるようになった人数

※R7問題行動等調査より

・小学校は、登校できるようになった人数は11人で、**小学校全体の17%**にあたる。
・中学校は、登校できるようになった人数は21人で、**中学校全体の16%**にあたる。1/6が登校できるようになった。

内 容	小学校	中学校
指導の結果、登校する又はできるようになった児童生徒	11人(17%)	21人(16%)
指導中の児童生徒	54人(83%)	108人(84%)
計	65人	129人

【12 不登校でどの外部機関とかかわったのか】

	小学校	中学校	計
不登校児童生徒数	65人	129人	194人
＜学校外の機関との相談・連携＞	35人(54%)	59人(46%)	94人(48%)
内 訳	1 教育支援センター(風の子)	23人(35%)	26人(20%)
	2 市教委・教育センター	0人	1人
	3 児童相談所・福祉事務所	0人	4人
	4 保健所・保健福祉センター	1人	1人
	5 病院、診療所	12人(18%)	29人(22%)
	6 民間施設	6人	6人
	7 障害児支援施設	1人	1人
	8 上記以外の機関	0人	0人
＜学校内の相談＞	25人	72人	97人
内 訳	9 養護教諭	8人	28人
	10 スクールカウンセラー、相談員	14人(22%)	33人(26%)
	11 校内支援センター	5人(8%)	59人(29%)
上記1～11の専門的相談を受けている	45人	98人	143人
教職員からの継続的な相談・指導等	20人	31人	51人
相談指導なし	0人	0人	0人

※R7問題行動調査より(複数選択可)

＜学校外＞

- ・小中学校ともに、教育支援センターや市教委・教育センター・児童相談所が相談機関として利用されている。
- ・小学校、中学校とも、病院と連携しての対応が多く、小学校は12人(18%)中学校は29人(22%)でほぼ5人に1人が連携している。

＜校内＞

- ・スクールカウンセラーとのかかわりが多い。小学校は14人(小学校全体の22%)、中学校は33人(中学校全体の26%)であった。

＜校内支援センター＞

- ・中学校の生徒支援員配置により、生徒の居場所づくり、学習保障、学習支援が行われている。

【13 不登校期間中に、学校外で学習成果の成績評価を行ったか】

※R7問題行動調査より(複数選択可)

		小学校	中学校	合計
不登校児童生徒数		65人	129人	194人
内訳	①自宅等(カッコ内はICT活用で出席扱い)	2人	40人	42人
	②教育支援センター(風の子ひろば)	0人	6人	6人
	③教育委員会所轄の機関(②を除く)	0人	0人	0人
	④民間団体・民間施設	2人	0人	0人
	⑤上記以外の機関等	0人	1人	1人
合計		4人	40人	44人

【14 「風の子ひろば」の活用状況はどの程度か】

()は女子

※仮入級含む(見学のみは除く)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
令和7年	0	4(3)	1	2(1)	3	4(3)	5(1)	7(3)	4(2)	30(13)
令和6年				4(1)	1	3(1)	4(1)	4(2)		16(5)
令和5年						3(3)	4(2)	4(2)	5(4)	16(11)
令和4年		1(1)		1		1	4(4)	4(4)	5(4)	16(13)
令和3年						2(2)	3(2)	4(4)	9(5)	18(13)
令和2年			2 (1)		1 (1)	2 (2)	3 (3)	6 (5)	1 (1)	15(13)
令和元年					1	1	5	4	4	15
平成30年						1	6	6		13
平成29年				1		1	3	1	5	11
平成28年					1		2	5	7	15

- ・令和7年度、風の子に通級した児童生徒は30人で、例年よりほぼ倍増した。
- ・30人のうち、男子が17人、女子は13人で、男子が若干多い。(R5までは、女子の方が多かった。)
- ・小学生と中学生がほぼ同数である。
- ・通級している児童生徒のほとんどが、学校につながる事ができた。

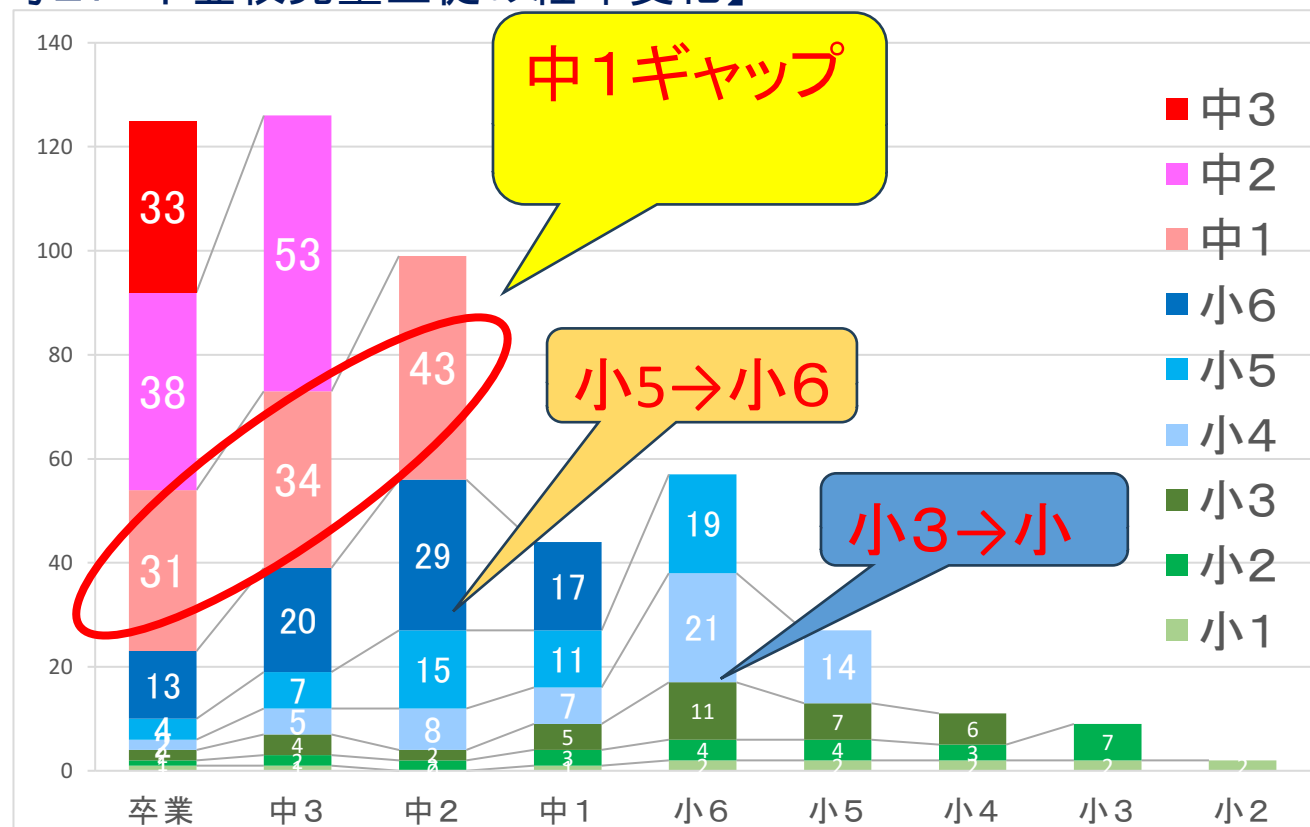
【参考1： 不登校のきっかけや原因は何が多いのか】（※令和5年度より、項目変更） ※R7問題行動等調査（複数選択可）

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	合計
	いじめ	いじめを除く 友人関係	教職員との関係	学業不振	学校の決まり等を めぐる問題	入学、転入学、進路等	家庭生活の変化	親子のかかわり	生活リズム	遊び・非行	無気力	不安・抑うつ	障害（疑いも含む）	個別の配慮	該当なし	
小1												1			1	2
小2				1		1		1			2	1	1			7
小3		2					1		1			2				6
小4		2		2				1	4			5				14
小5		6	2				1	2	1		2	4		1		19
小6		3		2			1	1	3		1	6				17
中1		9		2			3	2	11		6	9	1			43
中2		13	2	11	1	1	4	3	2		7	8		1		53
中3		7	1	2		1	2	1	3		5	11				33
小合計	0	13	2	5	0	1	3	5	9	0	5	19	1	1	1	65
中合計	0	29	3	15	1	2	9	6	16	0	18	28	1	1	0	129
全合計	0	42	5	20	1	3	12	11	25	0	23	47	2	2	1	194

	いじめ	いじめを除く 友人関係	教職員との関係	学業不振・宿題未提出	学校の決まり等を めぐる問題	入学、転入学、進路等	家庭生活の変化	親子のかかわり	生活リズムの不調	遊び・非行	（無気力） やる気が出ない	不安・抑うつ	障害（疑いを含む）	個別の配慮	該当なし
小学校	0	14	2	12	1	1	13	14	24	5	16	22	8	7	1
中学校	0	36	9	28	1	7	10	15	42	4	37	38	9	3	0
合計	0	50	11	40	2	8	23	29	66	9	53	60	17	10	1

○小学校…1生活リズムの不調24名、2不安・抑うつ22名、3無気力16名
○中学校…1生活リズムの不調42名、2不安・抑うつ38名、3無気力37名、4友人関係36名、5学業不振28名

【参考2： 不登校児童生徒の経年変化】



- ・現中3、中2、小6は、増加傾向にある。
- ・中1ギャップはみられるが、卒業生2.3倍、中3生1.7倍、中2生1.5倍と減少傾向にある。(小6の不登校児童数が増加しているので、分母が小さくなっているのも一因と思われる)
- ・小学校では、6年生、4年生の増加が大きい。
6年生での増加率…卒業生3.2倍、中3生2.8倍、中2生1.9倍、中1生1.6倍
4年生での増加率…小6生1.9倍、小5生2倍、小4生2倍

校内教育支援センターとは・・・

「[誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）](#)」の中で、
中心的な役割を果たしている、児童生徒の居場所

資料：2-1

「学校には行けるけど、教室には入れない...」そんな児童生徒のために・・・

従来の別室教室

別室登校は、教室以外の空き教室、図書室、相談室など、そのときに使える部屋を利用します。

次のような課題がありました。

- ・対応できる先生がいないと、十分な支援がされない（自習での学習）
- ・対応する先生が替わることで、活動が継続的に安定しない
- ・担当する先生の思いで学習内容が決まる

課題を解決

校内教育支援センター

校内教育支援センターは、教室に入れない児童生徒のために、学校内の教室以外の専用の部屋で、常に生徒支援員を配置し、日常的に安心して通える場所です。

次のような支援を受けることができます。（3つの居場所）

- ①環境面での居場所・・・安心して過ごせる居場所としての環境（空き教室を利用した落ち着く場所）
- ②学習での居場所・・・個々に合わせた学習支援（自分のペースで、自分で決めての学習）
- ③心の居場所・・・心のケアと相談支援（カウンセリングや個別面談等を実施）

各学校は運営計画を立てる

学習に取り組む生徒

校内教育支援センター

安心して過ごせる学習室



●学習室で各自が学習に取り組む



●生徒支援員と一緒に学習する（数学）



●オンラインで授業を受ける（理科）



●自分で決めた学習に取り組む（美術）



●体を動かしてリフレッシュ（体育）



●配信授業後、実際に実験を行う

6月8日（月）計画表		オンライン	
登校時刻	10時 00分	下校時刻	12時 00分
昨日の起床時刻	11時 30分	今朝の起床時刻	7時 30分
朝ごはんは？	食べた（パン）	今日の体調は？	◎
食べた	食べた（おみよ）	今日の体調は？	◎
食べた	食べた（おみよ）	今日の体調は？	◎
【今日、がんばってみたいこと】			
計算			
予	定	活動場所	活動したこと
クラス	自	分	
1			
2			
3	数学	自宅	計算
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
そうじ			
短学活			
【今日の反省・感想】			
「計算って難しいなあ」と思ってたけど、先生が教えてくれたので、少しずつできるようになった。明日はもっと頑張りたい。			
【今日の先生や友達の名前】			
先生：小田先生、木村先生、校長先生			

◆自己決定しての学習計画表



■個別の学習（机）



■小集団での学習（テーブル）



■個別相談のできる場所の確保



■壁面に生徒の作品掲示

●生徒の気持ちに寄り添い、結果よりも「やろう」とした思いに共感する

◆活動内容を自分で選択する（自己決定）

■生徒が自分の思いを表現ができる環境を整える

成果

- ・生徒支援員の支援により、登校が安定し、卒業後の進路につながった。
- ・教室以外の居場所ができたことで毎日登校できるようになった。
- ・教職員からの声かけで、教職員とのコミュニケーションも生まれた。
- ・教科によって教室で授業を受けれる生徒も見られた。
- ・生徒と学習計画表を作成し、自己決定することで、前向きに取り組んだ。その結果、テストを受けることで評価にもつながった。

課題

- ・生徒が抱える発達上の困難さや人間関係に課題をもつ生徒もあり、現状からの進展が難しい。
- ・オンライン授業に向けての環境整備が整わない。
- ・生徒によって登校時刻が異なり、午後の登校生徒もあり、対応の工夫が必要である。

今後

- ・スクールカウンセラーや教育相談員等と連携する。
- ・個に応じた学習環境の整備を行う。（パーティションの設置、オンライン授業等に向けての環境整備と支援体制の強化）
- ・生徒には生徒支援員だけでなく、教員も含めて組織的に対応する。

- ① 児童生徒個々のニーズに応じた居場所の確保と多様な学びの場につなげる
- ② 小さなSOSを見逃さず「チーム学校」で支援する

重点
取組

- ・教育支援センター「風の子ひろば」による支援の充実(センター機能の強化)
- ・校内教育支援センターの設置・充実 及び 環境の整備
- ・フリースクール等、関係機関との連携の更なる強化

教育支援センター 風の子ひろば

- ・子どもの様子、状況の共有
- ・個に応じた学習の支援
- ・児童生徒、保護者等との教育相談
- ・アウトリーチ型の学校訪問
- ・出張教育相談会の実施



市長部局(福祉部・健康こども部)

- ・福祉的課題等を有する家庭への支援

地 域

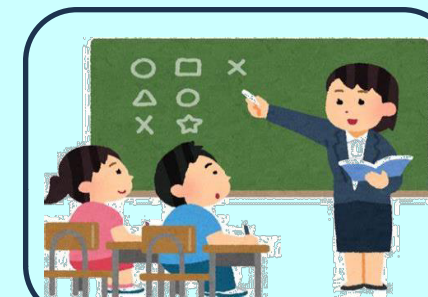
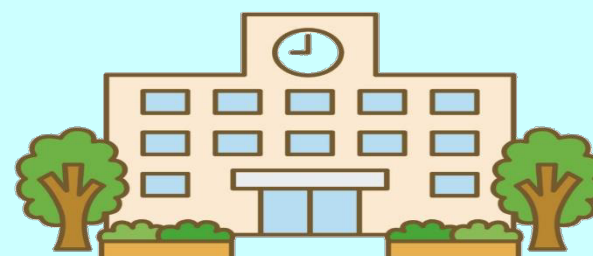
- ・学習の場の提供や地域講師の学習支援
- ・地域行事、体験活動への参加



学 校



支援計画による
組織体制



校内教育支援センター

時間割	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					



学習支援



相談支援



静かな環境の保障



オンライン授業

- ・集団の中での生活が苦手...
- ・自分のペースで学びたい...
- ・静かな環境で生活したい...

担任他

訪問、支援

保護者

- ・家庭訪問、保護者との面談
- ・子どもの学習支援、今後の対応等の共有



教育委員会



- ・校内不登校研修会(中学校)
- ・生徒支援員の配置(中学校)
(不登校児童生徒等の学び継続事業)
- ・ケース会議での支援

SC・SSW

- ・SC(カウンセリング)とSSW(福祉の専門家)による支援

フリースクール

- ・子どもの様子、状況の共有
- ・生活の居場所
- ・学習の支援
- ・体験活動

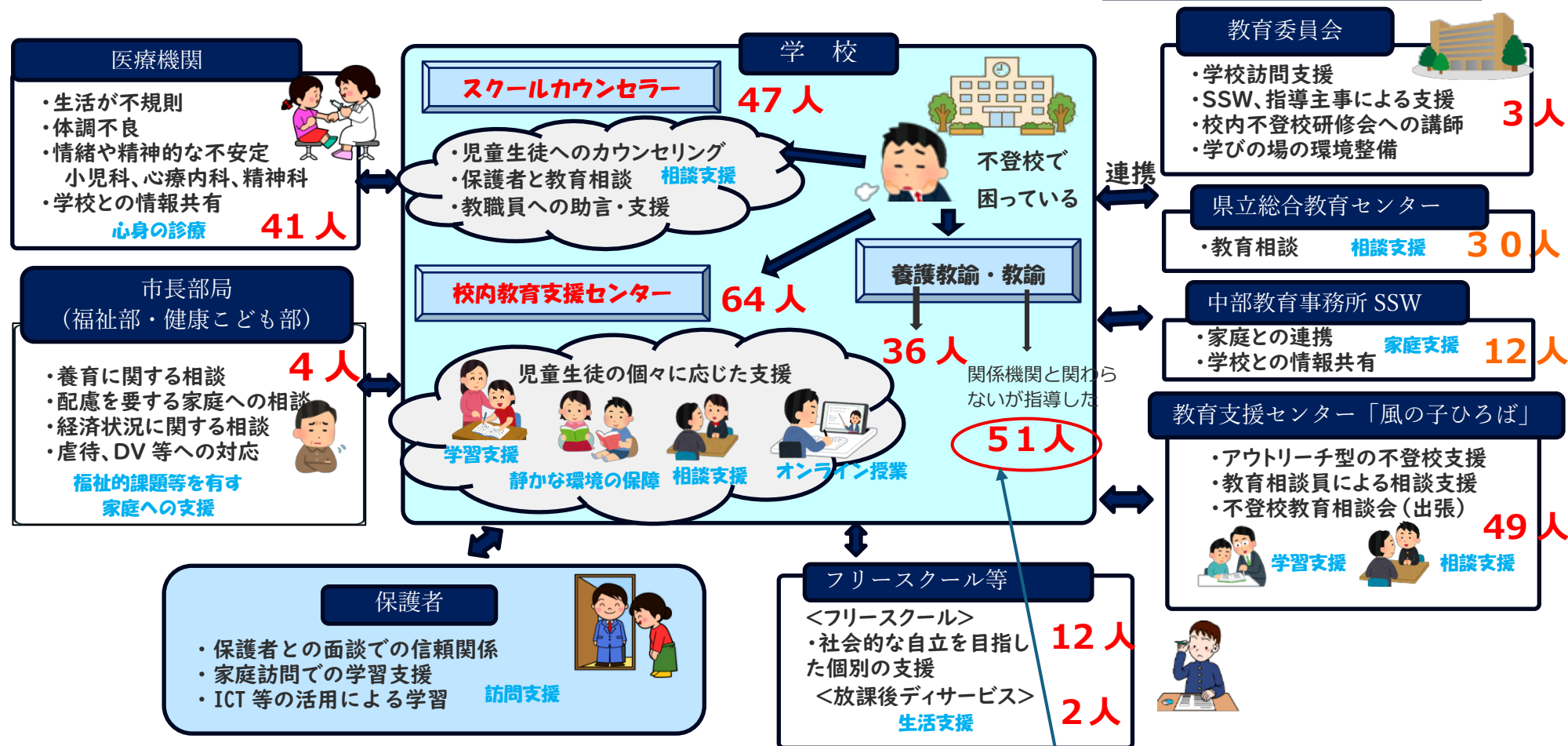


放課後デイサービス

- ・生活・体験の支援

R7 花巻市 COCOLO プラン <関係機関で相談・指導を受けた人数> (令和7年度問題行動調査集計結果より)

R7不登校数 **194人**
(小学校65人、中学校129人)



<現状>

- 学校外の関係機関と相談指導を受けた94人(48%)
- 校内で指導を受けた(養教・SC・校内支援センター)97人(50%)
- 上記の専門的な相談・指導を受けていない51人(26%)
→うち51人は継続的に教諭が相談・指導をしている。

<課題>

- ・専門的な指導を受けなかった51人の児童生徒の状況把握
- ・保護者への関係機関の情報提供とその必要性を理解していただくこと。
- ・関係機関どうしが支援できる内容の情報共有が必要である

【不登校ネットワーク会議】
関係機関との連携体制の構築
～支援の方向性を共有～

○花巻市COCOLOプランの課題①

対象	主な実態・課題
児童生徒	・引きこもりの状態（支援受け付けない） ・病的、無気力、特性、自己中心的、感情調整の困難さ、認知の歪み、コミュニケーション能力の不足、ゲーム依存、昼夜逆転
保護者	・精神的不安定さ、放任、現状改善意識の希薄、時間的・心理的余裕のなさ ・児童生徒に保護者がうまく関われない、学校不信等
学校	・保護者との関係を築けない ・関係機関と連携を図るタイミングが難しい ・週時程の工夫で家庭訪問の時間を生み出す、保護者支援の視点の欠如

○花巻市COCOLOプランの課題②

対象	主な実態・課題
関係機関	<校内教育支援センター> ・生徒が抱える発達上の困難さへの対応 ・オンライン授業の体制整備が整わない <教育支援センター 風の子ひろば> ・利用者数増加に伴い、児童生徒の居場所確保 ・特性をもった児童生徒の対応に苦慮 <スクールカウンセラー> ・勤務時間・来校頻度が限られ、緊急の即応や継続的な支援が難しい。 ・守秘義務重視のためSCが得た情報が学校側と共有されず、担任・管理職・SSWと連携した組織的対応が機能しないケースがある

○花巻市COCOLOプランの課題③

対象	主な実態・課題
関係機関	<スクールソーシャルワーカー> ・ 情報共有の不足・タイミングがズレSSWに相談するタイミングが遅く、早期介入の機会を逃しやすい ・ SSWの役割・権限が学校内で理解されていない <フリースクール> ・ 学校とフリースクールが、児童生徒の支援のあり方について情報共有する場が少ない <放課後デイサービス> ・ 学校が放課後デイサービスの利用が効果的であると捉えるも、保護者の理解に苦慮し、支援につながらない

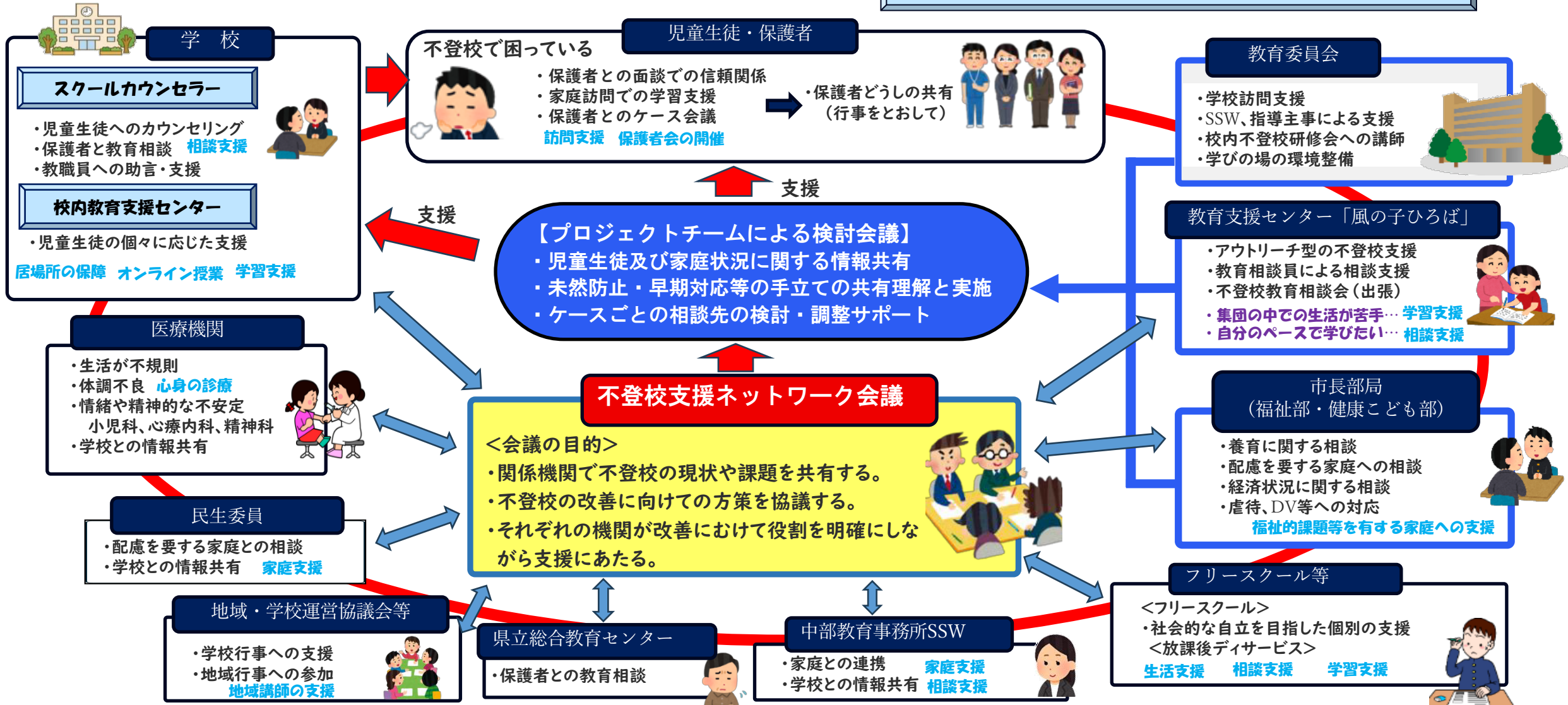
花巻市不登校支援ネットワーク会議 構成図(案)

「誰一人取り残されない支援に向けて」

<不登校支援の視点>

- ① 自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指すサポート
- ② 不登校児童生徒全ての学びの場の確保
- ③ 不登校初期段階での対応（未然防止・初期対応）
- ④ 関係機関の連携の強化による児童生徒、保護者へのサポート

資料:3-1



○<構成員> 小学校校長、中学校校長、岩手県立総合教育センター、中部教育事務所SSW、教育支援センター「風の子ひろば」フリースクール、医師、こども家庭センター、地域福祉課、障がい福祉課、花巻市PTA連合会、花巻市教育委員会

社会的自立を目指した「つなぐ」「支える」アクションプラン(案)

～「誰一人取り残されない支援」のために、大人ができること～

資料:3-2

家庭のアクション

保護者・児童生徒

- ☐ 学校との相談による、学校とのつながり（定期的な個別面談）
- ☐ 学校との相談による、適切な相談機関へのつながり
- ☐ 風の子の訪問や学校行事による、保護者同士のつながり



学校のアクション

学 校

1 学校の意識改革

- ☐ 校内支援会議等を定期開催（中学校・SC同席で定期的）
- ☐ ステップアップシートを活用し、状況把握・支援策決定（毎月）
- ☐ 家庭訪問による児童生徒、保護者の意向確認（週1回）
- ☐ 長期不登校児童生徒の他機関との連携 ☐ スクールカウンセラーとの共有
- ☐ 教育支援センター及びフリースクールへの訪問（児童生徒への励まし）

2 校内不登校研修会等の実施

- ☐ 早期対応の在り方に関する研修（中学校対象）
- ☐ 家庭訪問の仕方と保護者との関わり方に関する研修

3 小中連携

- ☐ 中1ギャップの未然防止のための情報共有（随時）
- ☐ 小中合同ケース会議の実施（家庭及びきょうだい支援）

4 学びの場の確保

- ☐ 地域振興センター等の活用（地域の協力）



校内教育支援センター

1 校内教育支援センターの強化

- ☐ 運営計画書及び報告書の作成（4月組織的運営の確立→2月市教委に報告）
- ☐ 生徒支援員研修会の実施（7月） ☐ 生徒支援員ケース会議の開催（毎月1回）

2 センターの学習環境の整備

- ☐ 学びの場の環境づくり（教室表示、掲示物、机の配置、パネル等の活用）
- ☐ オンラインでの学習環境の整備

不登校児童生徒を支える機関のアクション

教育委員会

<学校支援>

- ☐ 校長会議で不登校の実態共有（学校別、学年別、欠席理由等）
- ☐ 小中学校へ定期訪問（1～2学期）
- ☐ 関係機関への接続支援
- ☐ 各学校のステップアップシートでの状況把握（各学期）
- ☐ ケース会議へ出席及び相談・助言
- ☐ 研修会実施（校内研、生指連5月・9月）

教育支援センター「風の子ひろば」

1 アウトリーチ型の支援の実施

- ☐ 保護者からの電話相談を受けて学校訪問の実施
- ☐ 校内ケース会議出席

2 不登校教育相談会の実施と周知

- ☐ 大迫、石鳥谷、東和地区における巡回教育相談会の実施（月1回・各支所）
- ☐ 不登校児童生徒宅へ家庭訪問（長期欠席）

3 学びの環境整備の実施

- ☐ 一人一台端末を活用したオンライン学習の実施



【市長部局】こども家庭センター・地域福祉課・障がい福祉課

- ☐ 要対協等における情報共有及び相談対応（随時 こども家庭センター）
- ☐ 生活保護受給家庭に対する学習支援の実施状況確認（学期に1度 地域福祉課）
- ☐ 放課後デイサービスの利用状況に係る情報共有（随時 障がい福祉課、教育支援センター）

フリースクール

- ☐ 学校と連携・情報共有（毎月の活動報告書）
- ☐ 指導要録上「出席扱い」への対応
- ☐ 個別支援計画に応じた支援の実施
- ☐ 教育委員会との情報共有（各学期）

中部教育事務所SSW

- ☐ 児童生徒保護者からの相談支援
- ☐ 児童生徒所属校との連携
- ☐ 教育支援センター・市教委との定例情報会議（各学期）

不登校（傾向）児童生徒 ステップアップシートによる10段階の実態（R8.6月現在）

【不登校の改善に向けた段階表】 スモールステップで一段ずつのアップを目指して！													
教室復帰		登校できる				不登校							
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	段階場所			
教室		学校（教室以外）				家庭							
○学級に復帰している	○欠席や遅刻や早退がしばしばある	○活動内容によって教室に入れない	○教室以外の登校が定着している	○不規則ながら登校している	○短時間だけ登校している	○学校以外の施設に参加できている	○比較的気軽に外出できる	○家庭内では安定しているが外出は難しい	○ほとんど部屋から出ない	状況			

令和7年度末～令和8年度6月における、
花巻市の不登校児童生徒の「10の段階の実態」の傾向

■ 小学校

- ①「学級に復帰している」、②「欠席や遅刻がしばしばある」が多い。
- 学校の組織的な対応が効果を挙げていることが見て取れる。

■ 中学校

- ①「学級に復帰している」が最も多い。
- 小学校6年時に不登校であった生徒が、中学校で新たな気持ちに切り替えてスタートしたことによるものと考えられる。いわゆる「中1ギャップ」等、今後の動向には、注意していく必要がある。

■ 小・中学校共通

- ⑥「短時間だけ登校している」も多い。
- その理由としては、小学校ではタッチ登校、中学校では校内教育支援センターに通級する生徒が増えていることが挙げられる。

